

試験時間

90分

注意事項

- 1 解答题用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
- 2 問題用紙、草稿用紙は解答题用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはならない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

どのような社会を目指すのが適切なのか。その判断は、それぞれの考え方に従って、「この世界を動かしてみたら、どのような社会が実現するのか」と考えておこなうより他はない。そして、こと医療に関しては、その結果はすでにテスト済みだ。医療に関しては、新自由主義によって作り上げられたシステムは、米国の医療が最もそれに近く、また中国もそれに近い。逆に、「個人の自由や市場の効率性ではなく、医療は万人に平等に提供されるべきもの」という基本的な考え方に立つ体制の代表として、北欧諸国やイギリスの医療制度が挙げられる。保険制度を基盤とするドイツやフランス(日本もこのグループに入る)は、両者の考え方のうちで、北欧やイギリスの側に近い。

どちらの制度を採用しても、長所もあれば欠点もある。だが最終的には、ジョゼフ・E・ステイグリッツが「世界の99%を貧困にする経済」で指摘するように、この選択は「われわれがどのような社会で生きることができるかを望むか」というところに行きつく。そして、まったく異なる二つの未来像の選択を迫られることになる。

一つは持てる者と持たざる者との間が大きく分裂した社会だ。「その国では、裕福な者は高い壁に囲まれた高級住宅街に住み、子供たちを費用のかかる学校に通わせ、一流の医療を受ける。一方、残りの人々は不穏さ、よくても並みの教育、事実上配給制の医療を特徴とする世界で暮らす。」このような社会では、貧困層の若者が疎外され、希望をもてずにいる。そういう構図は多くの発展途上国において目にすることができるといえる。

もう一つは、持てる者と持たざる者の間の差が狭まる社会だ。「運命共同体の認識、機会と公正さに対する万人の誓約が存在する社会、万人のための自由と正義」という言葉が顔面どおりの意味を現実を持つ社会だ。」

ステイグリッツは、「この中で第二の未来像こそが、わたくしたち(アメリカ人の伝統と価値観に一致する唯一の未来像だと信じている」と述べている。彼は、富の分配が不平等だとしても、社会の進歩や経済の発展に大きく寄与した人物に多くの富が分配されることを否定してはいない。彼が不満とするのは、富の分配をとくに大きく受けた人物のリストを眺めると、アメリカの不平の本質を感じさせられることだ。——中略——

ステイグリッツの大きな問題意識は、次のひと言に尽きる。「富の分配で上位を占める人々の成功をくわしく見てみると、彼らの才能の決して少なくない部分、市場支配力や市場の不完全性を存分に利用するには、どんな仕組みをつくり上げればいいのかという点に注がれている。」つまり、彼らには多くの場合、政治を社会全体のために機能させず、自分たちのために機能させる方法を見つけて出し、その方向に誘導することに長けているのだ。

グローバル化した現在の経済システムの下では、国や地方自治体などの公的な制御がことごとく取り払ってしまわれる結果、大きな格差と格差の固定化を生みやすい。新自由主義者は、このことをもってその社会を不台格とは考えず、その効率と自分たちにもたらす恩恵をむしろ歓迎するだろう。結局、彼らは「市場」が価格という指標を通じてより適切な調整をすることができるというマーケット・メカニズムの信奉者なのだ。

将来の医療をどのように選んでいくのか、ひいてはわれわれがどのような社会で生きることが望むのかにかかわらず、のちに述べるように、年々増大する国民医療費という問題を前に、どの国もその選択にはとまどいがある。しかし、二つの未来像のどちらを選ぶかによって、医療の考え方に大きな違いが生まれる。一方では医療は個人が選択するサービスに過ぎないのであるから、一般の商品と同様に自己責任に委ねるのが適切という考え方になる。もう一方では、医療を受けることは個々人の基本的な人権に属し、社会がそれを支えていく必要があるという考え方になる。

どちらの考え方が本質的に正しいかの判定を下すことはとても難しい。また、その判定を論理的に下そうとすることは、しばしば不毛の議論に陥りかねない。それぞれの国民がその国民性や社会の歴史の違いに基づいて判断をし、選択をするべき問題なのだ。

(桐野高明著「医療の選択」岩波新書)

問一 この文章に、二十字以内で適切なタイトルをつけなさい。

問二 保険制度を基盤とする国々は、北欧諸国やイギリスの医療制度に近いと考えられる理由を二百字以内で述べなさい。

問三 二つの未来像を考慮したうえで、今後日本が目指すべき医療制度について、あなたが考えることを六百字以内で述べなさい。